

会 議 録

平成 23 年 12 月 13 日調製

審議会等名	平成23年度 第1回三条市文化振興に関する懇談会		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成23年10月31日（月） 午後2時～午後4時		
開催場所	中央公民館 音楽視聴覚室	傍聴者	1人
		報道機関	三条新聞、越後ジャーナル
出席者氏名	委員 阿部涼子委員、花柳雅鶴委員、田村和豊委員、椛澤伸治委員、 櫻井綾委員、大原貞雄委員、樋山利浩委員、浅野真理子委員、 鶴巻純子委員 三条市 宗村市民部長、金子生涯学習課長、鶴巻生涯学習課長補佐、 長谷川文化振興係長 (欠席者) 中村勝委員		
協議題	(1) 今後の芸術・文化活動の取組み、考え方について ア 芸術文化活動の取組み状況 イ 今後の取組み方向について		
市民部長	あいさつ		
自己紹介	委員、市職員の順に自己紹介		
金子課長	会長、副会長については、要綱第5条により委員の互選ということであるが、 指名推薦という形で選出をお願いしたい。		
	(阿部委員の推薦多数)		
金子課長	阿部委員推薦が多数であるので、会長は阿部委員をお願いしたい。以後の進行 をお願いする。		
阿部委員長	就任のあいさつ では、副会長の推薦をお願いしたい。		
	(複数委員の氏名推薦があったが、欠席ではあるが中村委員へ依頼の声多数)		
阿部委員長	皆様のご意見であるので、欠席ではあるが中村委員をお願いすることとした い。では、議題(1)「今後の芸術文化活動の取組・考え方について ア 芸術文 化活動の取組み状況」の説明をお願いする。		
金子課長	(資料により説明) 三条市総合計画から説明をするが、受け手としてではなく、創造的な作り手と しての活動が多くみられ、活動は活発で多様化している。次世代を担う子供たち の創造性・情操を培っていくことがもとめられるだろう、ということをやたっ ている。市民が芸術文化に触れる機会を増やすなどのため環境を整えていく必要が あることや指定文化財などの文化遺産についても大切にしていこうという保存		

	<p>についても説明してある。また、次世代育成のための文化団体の活動の奨励・支援や諸橋徹次記念館や歴史民俗産業資料館などの所蔵品を通じて、名誉市民の作品など芸術に触れる機会の拡充についても説明されている。</p> <p>今年度は、生涯学習課の主催事業としては、美術展、音楽祭、音楽公演、青少年文化振興事業、芸術鑑賞ツアー、楽音祭、市民ギャラリー、大会出場激励金、マイタウンコンサート等がある。また、各公民館でもそれぞれ文化活動の講座や発表を行っている。</p>
阿部委員長	<p>現状について幅広く説明していただいたが、ご質問等あればお願いしたい。特に意見がないようなので、「イ 今後の芸術文化活動の取組方向について」に移りたい。事務局より説明をお願いしたい。</p>
金子課長	<p>(資料により説明)</p> <p>今後の取組みの方向であるが、平成23年から三条市総合計画も後期に入っており、この中で文化振興基金の有効活用を考えながら芸術文化の振興に取り組んでいる。大きな方向としては、次世代を担う青少年の育成や指導的人材養成の育成及び活用を考えたい。</p> <p>次年度以降の取り組みであるが、市民文化を担う人材の育成と活用として、引き続き、青少年文化振興事業の「わくわく未来塾」を実施するほか、人材養成のための発表の場の提供や支援、若手アーティスト支援事業、越後馨女唄保存・啓発事業、中心市街地における文化支援事業、芸術文化鑑賞環境の整備の実施を考えている。</p>
阿部委員長	<p>質問、意見などお願いしたい。</p>
田村委員	<p>懇談会の所掌事項をみると基金の使い方の話をすることなのだろうが、今後市で積み立てるなど基金が増えるということがあるのか。</p>
金子課長	<p>厳しい財政状況であるので、今後積み立てることは難しい。約6800万円という基金を有効に活用していくことがその主旨であるので使い方をご審議願いたい。</p>
阿部委員長	<p>文化振興基金について、委員の皆さんにもう少し説明をお願いしたい。</p>
金子課長	<p>(文化振興基金の経緯、主旨について説明)</p>
阿部委員長	<p>この基金を基にした事業での収益や寄付による収益があってもいいのではないかと考えていたが、使っていけばあつという間になくなるお金なのか。</p>
椛沢委員	<p>説明にあった文化振興事業が全てこの基金を利用するものなのか。</p>
金子課長	<p>今年度は、「わくわく文化未来塾」「マイタウンコンサート」「芸術鑑賞ツアー」が対象で、予算は240万円程である。</p>
椛沢委員	<p>そうすると、毎年その程度の額が減っていくということではないか。</p>
金子課長	<p>そうである。</p>
花柳委員	<p>基金を眠らせておくのはもったいないと思うので事業実施をしながら、寄付をしてくれるような賛同者を増やしていけば良いと思う。まちぐるみで応援して育てるような方向へ持っていくような懇談会になればいいなと思う。</p>

田村委員	<p>事業については参加費をとったり、例えば、南魚沼の財団のように企業に寄付を募ったりなどして基金を減らさないようなことも考えられる。</p> <p>三条市のジュニア合唱団の方にも情報を聞かせてもらっている。三条市にお住まいの方が、新潟市のジュニア合唱団に通わせている。小学生・中学生が三条市外に出て行く、人材流出のような形になっているのは、オーケストラや邦楽のクラブが新潟市にあるからである。</p> <p>少子化で児童数が減っている中で、クラブ活動自体が縮小している現状では、学校の枠を超えた校外活動のような形でのクラブ活動に使うことも良いのではないか。</p>
阿部委員長	<p>基金の有効活用とはいっても減っていくばかりで、増やすことを考えてもいいのではないか、という意見をいただいた。また、今後どのような活用が望ましいか、ということがお聞きしたい。学校で校内での部活がうまくいっていないという話も聞き、学校を超えて文化活動を市などで支援をしていけないか、と考えているわけだが、学校関係ではどうか。</p>
樋山委員	<p>中学校の状況をお話する。全員加入制ではないが、ほぼ90%以上が学校では何らかの部活動をやっている。その内文化系は吹奏楽部と美術部の2つしかない。それ以上のニーズには応えられない状況なので皆さんからのお力添えは必要なのかなと思うが、実際機会があったとしても部活以外に子どもたちが踏み込んでいけるかどうか、難しさがあると思う。</p>
阿部委員長	<p>先ほどジュニア合唱団の話があったが、どうか。</p>
櫻井委員	<p>ジュニア合唱団は17名である。昔は50名の会員であったとお聞きしているし、17年間活動を続けている。今年から指導をさせていただいているが、元気に声を出すという機会も少なく、元気な子どもを育てていきたいと考えている。会の運営は親の会でやっている状況で、運営資金は個人個人の持ち出しとなっている。運営面での市の支援には大変感謝しているが、まだ大分厳しい状況である。三条から新潟のジュニア合唱団へ行って歌っている状況も聞いており、何で三条にあるのになってしまう。自分たちでPRもしていかなければいけないし、指導者も増やしたいしといろいろと考えている。更に支援をお願いしたい。</p>
阿部委員長	<p>貴重な意見をいただいた。小学校の状況はどうか。</p>
大原委員	<p>平成の始め頃までは部活動で小学校でも合唱とか吹奏楽があったが、現在はスポーツだけ、学習指導要領の改訂があってクラブ活動も減っている。そんな中で何をやっていたらいいのか、この場ではなかなか出てこない。</p>
阿部委員長	<p>浅野委員にお聞きしたいが、以前ふるさと絵画コンクールを実施していたが、現在はJ Cの活動としてはどうか。</p>
浅野委員	<p>青少年育成事業としては、文化活動ではないが、「ネイチャーゲーム」という自然の中でいろいろな事を学ぶという内容で実施している。大人と子どもと一緒に学んでいく場はすばらしいと思った。大人が子どもに提案していける場があったらいいと思う。</p>

阿部委員長	鶴巻委員に意見ををお願いしたい。
鶴巻委員	子どもの頃から本物に触れることが大事であると考えている。本物に触れるためにはやはり美術館が必要である。三条で美術展があれば、学校の授業で子どもたちが見学し作品にふれることもできる。この基金であるが、いくら有効活用といってもいつの間に何に使ったかわからないままなくなってしまうのか、という危惧を持っているので、できるだけ減らさない方向で考えていてもらいたい。
阿部委員長	事務局から何かあるか。
金子課長	基金について、寄付は12団体、9人の個人である。増やしていくということは難しいと考える。
阿部委員長	<p>意見がなければ今日の会議は閉じさせていただきたいと思うが、今日欠席の中村委員が代表をされている三条市芸術文化振興会議でも、やはり使っていけば減るばかりであるので、何とか基金を基にしてもっと振興を深めていく方法を探りださなければこの会の意味がない、という話し合いがあったことを報告させていただく。</p> <p>今回は初顔合わせでうまく意見が出なかったかもしれないが、次回にはもっと具体的な提案をお願いしたい。これで終了とする。</p>